

Symposium

◆ On-demand Streaming Available

📅 Sat. Jun 20, 2026 3:50 PM - 5:50 PM JST | Sat. Jun 20, 2026 6:50 AM - 8:50 AM UTC | 🏢 Room 3 (WINC AICHI 5F Small Hall 1)

Symposium 9 The knowledge of 3D printed dentures with helth insurance

Chair: Manabu Kanazawa (Institute of Science Tokyo), Katsushi Tamaki (Kanagawa Dental University)

2025年12月に3次元プリント有床義歯が保険収載され、デジタルデンチャーは特別な技術から日常臨床の選択肢へと位置づけが変わることとなった。本シンポジウムでは、保険収載に至った背景や制度上の位置づけを整理するとともに、印象採得・咬合採得・試適といった臨床ステップ、設計・造形を含む技工作業や修理・メンテナンス、さらに臨床エビデンスについて多角的に解説する。3次元プリント有床義歯を保険診療下で安全かつ適切に活用するための理解を深めることを目的とする。

[SY9-座長] [Chair's Abstract] The knowledge of 3D printed dentures with helth insurance

*Manabu Kanazawa¹, *Katsushi Tamaki² (1. Gerodontology and oral rehabilitation, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Institute of Science Tokyo, 2. Faculty of dentistry, Kanagawa Dental University)

[SY9-1] Background on the coverage under insurance of 3D printed complete denture

*Norinaga Kojima¹ (1. Aichi Gakuin University, Center for Clinical Education in Comprehensive Dentistry)

[SY9-2] Clinical evidence of 3D printed complete denture

*Hidemasa Shimpo¹ (1. Tsurumi University School of Dental Medicine, Dept. of Oral Rehabilitation and Removable Prosthodontics)

[SY9-3] Clinical Steps for 3D-Printed dentures (Impression, Bite Registration, Try-in)

*Maiko Iwaki¹ (1. Digital Dentistry, Institute of Science Tokyo (Science Tokyo))

[SY9-4] Fabrication procedure of the 3D printed complete dentures (Laboratory procedures, denture repair and maintenance)

*Masahiro Ryu¹ (1. Removable Prosthodontics and Gerodontology, Tokyo Dental College)

Symposium

Sat. Jun 20, 2026 3:50 PM - 5:50 PM JST | Sat. Jun 20, 2026 6:50 AM - 8:50 AM UTC | Room 3 (WINC AICHI 5F Small Hall 1)

Symposium 9 The knowledge of 3D printed dentures with helth insurance

Chair: Manabu Kanazawa (Institute of Science Tokyo), Katsushi Tamaki (Kanagawa Dental University)

[SY9-座長] [Chair's Abstract] The knowleadge of 3D printed dentures with helth insurance

*Manabu Kanazawa¹, *Katsushi Tamaki² (1. Gerodontology and oral rehabilitation, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Institute of Science Tokyo, 2. Faculty of dentistry, Kanagawa Dental University)

Keywords：3次元プリント有床義歯、全部床義歯、保険

CAD/CAM技術をはじめとする歯科領域のデジタル化は、補綴歯科治療の在り方を大きく変えつつある。とりわけ全部床義歯分野においては、効率性、再現性、情報共有性といった観点からデジタルデンチャーへの期待が高まってきた。2025年12月に3次元プリント有床義歯が保険収載されたことは、これまで主として自費診療や先進的な医療機関に限られていたデジタルデンチャーが、日常臨床に本格的に導入される大きな転換点である。本シンポジウムでは、「保険収載！3次元プリント有床義歯を知る」をテーマに、制度的背景から臨床応用、技工操作、さらに臨床エビデンスに至るまで、多角的な視点から理解を深めることを目的とした。まず、3次元プリント有床義歯が診療報酬制度へ導入された政策的背景や期中収載の仕組みについて整理し、保険診療としての位置づけを明確にする。次に、印象採得、咬合採得、試適といった臨床ステップにおける特徴や従来法との相違点、注意点を共有する。さらに、設計・造形・人工歯接着などの技工作業、修理・メンテナンスを含めた実践的な留意事項についても取り上げる。加えて、材料学的特性やこれまでに報告されている臨床研究結果を基に、3次元プリント有床義歯の有効性・安全性に関する現時点でのエビデンスを整理する。

Symposium

Sat. Jun 20, 2026 3:50 PM - 5:50 PM JST | Sat. Jun 20, 2026 6:50 AM - 8:50 AM UTC | Room 3 (WINC AICHI 5F Small Hall 1)

Symposium 9 The knowledge of 3D printed dentures with health insurance

Chair: Manabu Kanazawa (Institute of Science Tokyo), Katsushi Tamaki (Kanagawa Dental University)

[SY9-1] Background on the coverage under insurance of 3D printed complete denture

*Norinaga Kojima¹ (1. Aichi Gakuin University, Center for Clinical Education in Comprehensive Dentistry)

Keywords : 3D printing、診療報酬改定、全部床義歯

近年、CAD/CAMを応用した補綴装置の製作や光学印象をはじめとするデジタル技術が診療報酬制度へ導入され、これらを活用した効率的かつ効果的な歯科医療の提供は、医療の質と生産性向上の観点からその重要性が一層高まっている。さらに、「骨太の方針2025」において、有効性・安全性が認められたデジタル化を含む新技術・新材料の保険導入を積極的に推進する方針が示されている。また、令和8年度診療報酬改定の基本方針においても、歯科領域の主要ポイントとして「歯科治療のデジタル化の推進」が明確に掲げられている。こうした政策的背景および技術的發展に基づき、3次元プリント有床義歯が新たに診療報酬制度へ導入されたことは、歯科補綴領域におけるデジタル化推進の大きな一歩であり、今後のデジタルデンティストリーの普及をさらに促進するものと考えられる。診療報酬改定は、改定の基本方針を踏まえて中央社会保険医療協議会で具体的な診療報酬点数などの設定が審議され、その結果が最終的な改定内容として決定される。一方、年度途中に新たな医薬品・医療機器・医療技術などが承認された場合には、随時保険収載が行われる「期中収載」の仕組みもある。3次元プリント有床義歯は、新たな製作方法を導入している点において既存技術の区分では適切に評価できないため、新機能・新技術に該当するものとして期中収載された。本シンポジウムでは、3次元プリント有床義歯の診療報酬制度への導入の経緯と仕組み等の具体的事項を共有する場としたい。

Symposium

Sat. Jun 20, 2026 3:50 PM - 5:50 PM JST | Sat. Jun 20, 2026 6:50 AM - 8:50 AM UTC | Room 3 (WINC AICHI 5F Small Hall 1)

Symposium 9 The knowledge of 3D printed dentures with helth insurance

Chair: Manabu Kanazawa (Institute of Science Tokyo), Katsushi Tamaki (Kanagawa Dental University)

[SY9-2] Clinical evidence of 3D printed complete denture

*Hidemasa Shimpo¹ (1. Tsurumi University School of Dental Medicine, Dept. of Oral Rehabilitation and Removable Prosthodontics)

Keywords : 3D printing、全部床義歯、臨床エビデンス

CAD/CAMを応用した補綴装置の製作が一般臨床にも普及しており、補綴装置の均質性、耐久性だけでなく、情報の保存や伝達、製作期間の短縮など多くの利点が確認されている。有床義歯分野においてもCAD/CAM技術を応用した全部床義歯の製作システムがすでに実用化され、本邦でも3次元プリント有床義歯として保険収載された。これまでCAD/CAM全部床義歯の製作方法は高い精度や強度を有することから主としてミリング法が利用され、臨床的な検証においても高い評価を得ていた。しかし、レジンディスクを用いる利点がある反面、多様な全部床義歯形状を全て造形することは困難であった。一方、3Dプリントは造形形状の制限が少ないだけでなく、材料の無駄を最小限にできるサステナブルな方法であるため、全部床義歯製作にはより有用であると考えられる。しかし、3Dプリントに使用される光硬化型PMMAレジンとは異なる性質であり、材料学的特性などに関するエビデンスが少ないだけでなく、世界的にも臨床評価に関する報告は依然として少ない。安全に臨床応用するためには3次元プリント有床義歯の材料学的な特性、臨床的に生じ得るエラーなども含めて理解する必要がある。本講演では現在報告されている3次元プリント有床義歯の臨床評価や本邦での保険収載に向けて行われた他施設臨床研究の結果を踏まえた臨床的エビデンスを紹介する。また、臨床研究の経過観察で経験した症例を供覧し、3次元プリント有床義歯の実状と今後の発展性に関して考察する。

Symposium

Sat. Jun 20, 2026 3:50 PM - 5:50 PM JST | Sat. Jun 20, 2026 6:50 AM - 8:50 AM UTC | Room 3 (WINC AICHI 5F Small Hall 1)

Symposium 9 The knowledge of 3D printed dentures with health insurance

Chair: Manabu Kanazawa (Institute of Science Tokyo), Katsushi Tamaki (Kanagawa Dental University)

[SY9-3] Clinical Steps for 3D-Printed dentures (Impression, Bite Registration, Try-in)

*Maiko Iwaki¹ (1. Digital Dentistry, Institute of Science Tokyo (Science Tokyo))

Keywords : 印象採得、咬合採得、Try-in

日本は世界に類を見ない超高齢社会を迎えており、口腔機能の回復を目的とした補綴歯科治療の重要性は今後ますます高まると考えられる。一方で、高齢患者の増加に伴う症例の複雑化、医療費の増大、歯科技工士不足といった課題が顕在化しており、義歯製作においても効率性と再現性を両立した治療プロセスの確立が求められている。

近年、デジタル技術の進展により、全部床義歯製作の各工程においてデジタル化が可能となり、なかでも3次元プリント有床義歯は、従来法と比較して製作工程の簡略化が可能であり、形態や咬合に関する情報をデジタルデータとして共有できる手法として注目されている。2025年12月に3次元プリント全部床義歯が保険収載されたことは、デジタルデンチャーが特別な技術ではなく、日常臨床における選択肢の一つとして位置づけられる転換点である。

本シンポジウムでは、保険診療として実施可能な3次元プリント有床義歯に焦点を当て、特に印象採得、咬合採得、試適といった臨床ステップについて、従来法との相違点や注意点を整理する。さらに、保険収載を踏まえ、臨床現場での普及に向けた課題や今後の発展の方向性について情報を共有し、3次元プリント有床義歯に対する理解を深める機会としたい。

Symposium

Sat. Jun 20, 2026 3:50 PM - 5:50 PM JST | Sat. Jun 20, 2026 6:50 AM - 8:50 AM UTC | Room 3 (WINC AICHI 5F Small Hall 1)

Symposium 9 The knowledge of 3D printed dentures with health insurance

Chair: Manabu Kanazawa (Institute of Science Tokyo), Katsushi Tamaki (Kanagawa Dental University)

[SY9-4] Fabrication procedure of the 3D printed complete dentures (Laboratory procedures, denture repair and maintenance)

*Masahiro Ryu¹ (1. Removable Prosthodontics and Gerodontology, Tokyo Dental College)

Keywords : CAD/CAM、有床義歯、技工作業

デジタル技術を応用した義歯（デジタルデンチャー）の応用は、来院回数や技工作業の削減、質の均質化や再製作の容易さなど、様々な利点を有している。2025年12月に、我が国においてもついに3Dプリンターにて製作された総義歯が、3次元プリント有床義歯として保険収載されており、今後急速に普及していくことが期待される。

3次元プリント有床義歯は、通法によって製作される有床義歯とは製法だけでなく材料の性質も異なる点があるため、その応用には様々な注意点が存在する。保険適用に際しても、現状使用可能な材料や装置が限定されており、その製作ステップにおいても様々な留意事項があるため、今回適用となった製法について正しく理解しておく必要がある。

本講演では、今回保険収載された3次元プリント有床義歯製作ステップのうち、顎堤形態や顎間関係のスキャン、義歯の設計、義歯の造形、人工歯の接着といった技工作業について、その実際や留意点をまとめて紹介する。また、院外の歯科技工所と連携して製作する際の、歯科技工士に伝えるべきポイントや歯科技工士と確認すべきポイントについても整理したいと考えている。加えて、義歯破折時の修理やリライン、メンテナンスにおける、通法義歯との相違点や留意点、保険算定の方法など、実際に3次元プリント有床義歯による義歯治療を行うにあたって知っておくべき情報も紹介する。

本セッションが、3次元プリント有床義歯の製作と応用について正しく理解し、普及させていくための一助になれば幸いである。